

5. 脳炎の脳スキャン所見

前田 敏男 森 厚文
久田 欣一
(金大・核)

最近経験した3例の脳炎患者の脳スキャン所見を報告する。最初の2例は小児で3例目は大人である。

第1例は、RI アンギオグラムは正常。早期スキャンも正常。2時間後に撮像した脳スキャンは両側大脳半球内の放射能がび漫性に上昇しており、頭蓋輪隔や静脈洞も区別できない程であった。これは diffuse encephalitis の所見と一致する。なお本例では CT スキャン、CAG 等の所見は正常であった。脳炎の起因ウイルスは不明であったが経過は良く退院した。

第2例は、RI アンギオグラムで片側の perfusion 増加を示した。早期スキャンは正常。2時間後のスキャンは、RI アンギオグラム perfusion で増加を示した同側の crescentic pattern と側面像で側頭部に不整形の淡い異常集積を示した。これは限局性脳炎の所見と一致する。起因は mumps virus と考えられた。経過は非常に良く再検脳スキャンは正常化した。CT スキャンと CAG は正常であった。

第3例は、古い脳炎と思われた症例である。RI アンギオグラムと早期スキャンは正常。2時間後のスキャンは側頭部に淡い不整形異常集積を示し、CT スキャンで同部の atrophy を認めた。RI システルノグラフィーでは同部に異常 RI 停滞を示し、脳炎後遺症による脳萎縮と考えた。本症例は症状の改善は認められなかった。

以上より脳炎の初期には CT スキャンや CAG よりも脳スキャンの方が診断的価値があった。

6. Sturge-Weber 症候群の2例

——脳スキャン像と CT スキャン像の比較

斎藤 泰雄 寺島 克賢
河上 幹夫 吉崎 亮
(富山中病・放)
伊藤 茂 坂本 一
(同・小児)
杉山 義昭
(同・脳外)
前田 敏男 瀬戸 光
(金大・核)

2例の Sturge-Weber 症候群の脳スキャン及び CT スキャン像を報告した。

本症候群のスキャン像は、1) 患側大脳半球が小さく、患側の頭蓋輪郭部が拡大する。2) 患側半球のび漫性の RI 集積増加。3) 石灰化部位に一致した異常 RI 集積。4) RI アンギオで病巣部の RI 集積が低下し、血流低下を反映している。以上の所見が文献の報告されており、我々の症例もほぼ一致した所見を呈した。CT スキャン所見としては、1) 脳萎縮(頭蓋左右差、脳室・クモ膜下腔の拡大) 2) superficial cortical calcification 3) superficial contrast enhancement が報告されている。我々の症例(1歳、2ヵ月)は幼児のためか、形態学的変化は著明でなく、contrast enhancement が主な所見であった。contrast enhancement は、血管腫及び毛細血管透過性亢進の両者の関与によると考えられる。

幼児の場合、病態生理学的変化をとらえている脳スキャンの方が、形態学的変化を主に見ている CT スキャンよりも、著しい異常所見を呈するものと考えられる。

7. RI cisternography における脳萎縮所見の検討

仙田 宏平 今枝 孟義
加藤 敏光 浅田 修市
柴山 磨樹 土井 偉誉
(岐大・放)

CT スキャンによって脳萎縮を判定された患者